

高等学校学習指導要領比較対照表【外国語】

改 訂（平成30年告示）	現 行（平成21年告示）
<p>第2章 各学科に共通する各教科</p> <p>第8節 外国語</p> <p>第1款 目標</p> <p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して，情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの理解を深めるとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的话题や社会的な話題について，外国語で情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解したり，これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p> <p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的，自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>	<p>第2章 各学科に共通する各教科</p> <p>第8節 外国語</p> <p>第1款 目標</p> <p>外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。</p>
<p>-----</p> <p>第2款 各科目</p>	<p>-----</p> <p>第2款 各科目</p>

第1 英語コミュニケーション I

1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの五つの領域 (以下この節において「五つの領域」という。) 別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 聞くこと

ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

(2) 読むこと

ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

(3) 話すこと [やり取り]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合

第2 コミュニケーション英語 I

1 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

うことができるようにする。

(4) 話すこと [発表]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができるようにする。

(5) 書くこと

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える文章を書くことができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える文章を書くことができるようにする。

2 内 容

[知識及び技能]

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、小学校学習指導要領（平成二十九年文部科学省告示第六十三号）第2章第10節の第2の2の(1)、中学校学習指導要領（平成二十九年文部科学省告示第六十四号）第2章第9節の第2の2の(1)及び次に示す言語材料のうち、五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。

第3款 英語に関する各科目に共通する内容等

- 2 英語に関する各科目の2の(1)に示す言語活動を行うに当たっては、中学校学習指導要領第2章第9節第2の2の(3)及び次に示す言語材料の中から、それぞれの科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる。その際、「コミュニケーション英語Ⅰ」においては、言語活動と効果的に関連付けながら、ウに掲げるすべての事項を適切に取り扱うものとする。
(再掲あり)

ア 音声

- (ア) 語や句，文における強勢
- (イ) 文におけるイントネーション
- (ウ) 文における区切り

イ 句読法

- (ア) コンマ
- (イ) コロン，セミコロン
- (ウ) ダッシュ

ウ 語，連語及び慣用表現

- (ア) 小学校及び中学校で学習した語に400～600語程度の新語を加えた語

- (イ) 連語
- (ア) 慣用表現
- (イ)

エ 文構造及び文法事項

小学校学習指導要領第2章第10節の第2の2の(1)のエ，中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(1)のエ及び次に示す事項については，意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。その際，(イ)に掲げる全ての事項を，適切に取り扱うこと。

- (ア) 文構造のうち，活用頻度の高いもの
- (イ) 文法事項
 - a 不定詞の用法
 - b 関係代名詞の用法
 - c 関係副詞の用法

(新設)

(新設)

ア 語，連語及び慣用表現

- (ア) 語
 - a 「コミュニケーション英語Ⅰ」にあつては，中学校で学習した語に400語程度の新語を加えた語
- (イ) 連語及び慣用表現のうち，運用度の高いもの

第3款 英語に関する各科目に共通する内容等

- 2 (略) その際，「コミュニケーション英語Ⅰ」においては，言語活動と効果的に関連付けながら，ウに掲げるすべての事項を適切に取り扱うものとする。(再掲)

イ 文構造のうち，運用度の高いもの

ウ 文法事項

- (ア) 不定詞の用法
- (イ) 関係代名詞の用法
- (ウ) 関係副詞の用法

- d 接続詞の用法
- e 助動詞の用法
- f 前置詞の用法
- g 動詞の時制及び相など
- h 仮定法

[思考力, 判断力, 表現力等]

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し, 英語で表現したり, 伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し, コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて, 情報を整理しながら考えなどを形成し, これらを論理的に適切な英語で表現することを通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 日常的な話題や社会的な話題について, 英語を聞いたり読んだりして, 情報や考えなどの概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図などを的確に捉えたり, 自分自身の考えをまとめたりすること。

イ 日常的な話題や社会的な話題について, 英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら, 話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現すること。

ウ 日常的な話題や社会的な話題について, 伝える内容を整理し, 要点や意図などを明確にしながら, 英語で話したり書いたりして, 情報や自分自身の考えなどを伝え合うこと。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2)に示す事項については, (1)に示す事項を活用して, 例えば, 次のような五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して指導する。

ア 中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(3)の①に示す言語

(新設)

(エ) 助動詞の用法

(新設)

(カ) 動詞の時制など

(キ) 仮定法

【コミュニケーション英語基礎】

(1) 1の目標に基づき, 中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(1)に示す言語活動を参照しつつ, 適切な言語活動を英語で行う。

活動のうち、中学校における学習内容の定着を図るために必要なもの。

イ 聞くこと

(ア) 日常的な話題について、話される速さを調整されたり、基本的な語句や文での言い換えを十分に聞いたりしながら、対話や放送などから必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

(イ) 社会的な話題について、話される速さを調整されたり、基本的な語句や文での言い換えを十分に聞いたりしながら、対話や説明などから必要な情報を聞き取り、概要や要点を把握する活動。また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

ウ 読むこと

(ア) 日常的な話題について、基本的な語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを十分に聞いたり読んだりしながら、電子メールやパンフレットなどから必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

(イ) 社会的な話題について、基本的な語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを十分に聞いたり読んだりしながら、説明文や論証文などから必要な情報を読み取り、概要や要点を把握する活動。また、読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

エ 話すこと [やり取り]

(ア) 身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、情報や考え、気持ちなどを即興で伝え合う活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、賛成や反対の立場から、情報や考え、気持ちなどを理由や

【コミュニケーション英語Ⅰ】

(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。

ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。

エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。

(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。

ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。

イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。

ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。

根拠とともに伝え合う活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

オ 話すこと [発表]

(ア) 身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、発話例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

カ 書くこと

(ア) 身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに伝える段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに伝える段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

② 言語の働きに関する事項

言語活動を行うに当たり、例えば、次に示すような言語の使用場面や言語の働きの中から、五つの領域別の目標を達成するためにふさわしいものを取り上げ、有機的に組み合わせ活用するようにする。

第3款 英語に関する各科目に共通する内容等

1 英語に関する各科目の2の(1)に示す言語活動を行うに当たっては、例えば、次に示すような言語の使用場面や言語の働きの中から、各科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜取り上げ、有機的に組み合わせ活用す

ア 言語の使用場面の例

(ア) 生徒の暮らしに関わる場面

- ・ 家庭での生活
- ・ 学校での学習や活動
- ・ 地域での活動
- ・ 職場での活動 など

(イ) 多様な手段を通して情報などを得る場面

- ・ 本，新聞，雑誌などを読むこと
- ・ テレビや映画，動画，ラジオなどを観たり，聞いたりすること
- ・ 情報通信ネットワークを活用すること など

(ウ) 特有の表現がよく使われる場面

- ・ 買物
- ・ 食事
- ・ 旅行
- ・ 電話での対応
- ・ 手紙や電子メールのやり取り など

イ 言語の働きの例

(ア) コミュニケーションを円滑にする

- ・ 相づちを打つ
- ・ 聞き直す
- ・ 繰り返す
- ・ 言い換える
- ・ 話題を発展させる
- ・ 話題を変える など

(イ) 気持ちを伝える

- ・ 共感する
- ・ 褒める
- ・ 謝る
- ・ 感謝する
- ・ 望む
- ・ 驚く
- ・ 心配する など

(ウ) 事実・情報を伝える

- ・ 説明する
- ・ 報告する
- ・ 描写する
- ・ 理由を述べる
- ・ 要約する
- ・ 訂正する など

(エ) 考えや意図を伝える

- ・ 提案する
- ・ 申し出る

る。

[言語の使用場面の例]

b 生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面：

- ・ 家庭での生活
- ・ 学校での学習や活動
- ・ 地域での活動
- ・ 職場での活動 など

c 多様な手段を通じて情報などを得る場面：

- ・ 本，新聞，雑誌などを読むこと
- ・ テレビや映画などを観ること
- ・ 情報通信ネットワークを活用し情報を得ること など

a 特有の表現がよく使われる場面：

- ・ 買物
- ・ 食事
- ・ 旅行
- ・ 電話での応答
- ・ 手紙や電子メールのやりとり など

[言語の働きの例]

a コミュニケーションを円滑にする：

- ・ 相づちを打つ
- ・ 聞き直す
- ・ 繰り返す
- ・ 言い換える
- ・ 話題を発展させる
- ・ 話題を変える など

b 気持ちを伝える：

- ・ (新設)
- ・ 褒める
- ・ 謝る
- ・ 感謝する
- ・ 望む
- ・ 驚く
- ・ 心配する など

c 情報を伝える：

- ・ 説明する
- ・ 報告する
- ・ 描写する
- ・ 理由を述べる
- ・ 要約する
- ・ 訂正する など

d 考えや意図を伝える：

- ・ (新設)
- ・ 申し出る

- ・ 賛成する
- ・ 承諾する
- ・ 主張する
- ・ 仮定する など

- ・ 反対する
- ・ 断る
- ・ 推論する

(オ) 相手の行動を促す

- ・ 質問する
- ・ 誘う
- ・ 助言する
- ・ 注意をひく

- ・ 依頼する
- ・ 許可する
- ・ 命令する
- ・ 説得する など

- ・ 賛成する
- ・ (新設)

- ・ 反対する
- ・ (新設)

- ・ 主張する
- ・ 仮定する など

- ・ 推論する

e 相手の行動を促す：

- ・ (新設)
- ・ 誘う
- ・ 助言する
- ・ 注意を引く など

- ・ 依頼する
- ・ 許可する
- ・ 命令する
- ・ (新設)

【コミュニケーション英語Ⅰ】

3 内容の取扱い

- (1) 中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ、聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりする言語活動を適切に取り入れながら、四つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導するものとする。
- (2) 生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮するものとする。

【コミュニケーション英語基礎】

3 内容の取扱い

中学校における学習との接続と「コミュニケーション英語Ⅰ」における学習への円滑な移行のため、主に身近な場面における言語活動を経験させながら、中学校における基礎的な学習内容を整理して指導し定着を図るものとする。

3 内容の取扱い

- (1) 中学校におけるコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための総合的な指導を踏まえ、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、総合的に指導するものとする。
- (2) 中学校における学習との接続のため、既習の語句や文構造、文法事項などの学習内容を繰り返したり、特にこの科目の学習の初期の段階においては中学校における基礎的な学習内容を整理したりして指導し、定着を図るよう配慮するものとする。

第2 英語コミュニケーションⅡ

1 目標

第3 コミュニケーション英語Ⅱ

1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 聞くこと

ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(2) 読むこと

ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(3) 話すこと [やり取り]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく伝え合うことができるようにする。

(4) 話すこと [発表]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ち

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。

ちなどを論理性に注意して詳しく伝えることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく伝えることができるようにする。

(5) 書くこと

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく伝える複数の段落から成る文章を書くことができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく伝える複数の段落から成る文章を書くことができるようにする。

2 内容

[知識及び技能]

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(1)と同様に取り扱うものとする。ただし、指導する語については、「英語コミュニケーションⅠ」の2の(1)のウの(ア)で示す語に700～950語程度の新語を加えた語とする。また、「英語コミュニケーションⅠ」の2の(1)のエの(イ)については、示された文法事項の中から、五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものを取り扱うものとする。

[思考力、判断力、表現力等]

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

第3款 英語に関する各科目に共通する内容等

2 英語に関する各科目の2の(1)に示す言語活動を行うに当たっては、中学校学習指導要領第2章第9節第2の2の(3)及び次に示す言語材料の中から、それぞれの科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる。(略)(再掲)

ア 語、連語及び慣用表現

(ア) 語

b 「コミュニケーション英語Ⅱ」にあつては、aに示す語に700語程度の新語を加えた語

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(2)に示す事項について、五つの領域別の目標を達成するように取り扱うものとする。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して指導する。

ア 「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の①に示す言語活動のうち、「英語コミュニケーションⅠ」における学習内容の定着を図るために必要なもの。

イ 聞くこと

(ア) 日常的话题について、必要に応じて、話される速さを調整されたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、対話やスピーチなどから必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、話される速さを調整されたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、説明や討論などから必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を把握する活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

ウ 読むこと

(ア) 日常的话题について、必要に応じて、別の語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを聞いたり読んだりしながら、新聞記事や広告などから必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、別の語句や文での言い換

【コミュニケーション英語Ⅱ】

(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。

ア 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

イ 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。

エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。

(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。

ア 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら聞いたり話したりすること。

イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連などを考えながら読んだり書いたりすること。

ウ 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすること。

エ 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話したり書いたりすること。

えや、書かれている文章の背景に関する説明などを聞いたり読んだりしながら、論証文や報告文などから必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を把握する活動。また、読み取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

エ 話すこと [やり取り]

(ア) 関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、情報や考え、気持ちなどを詳しく伝え合う活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、説明や討論などを聞いたり読んだりして、賛成や反対の立場から、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく伝え合う活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

オ 話すこと [発表]

(ア) 関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、説明や討論などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

カ 書くこと

(ア) 関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一

定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく伝える複数の段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、説明や討論などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく伝える複数の段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

3 内容の取扱い

コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を踏まえ、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、総合的に指導するものとする。

第3 英語コミュニケーションⅢ

1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 聞くこと

ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。

3 内容の取扱い

【コミュニケーション英語Ⅱ】

「コミュニケーション英語Ⅰ」の3と同様に取り扱うものとする。

第4 コミュニケーション英語Ⅲ

1 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。

イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(2) 読むこと

ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(3) 話すこと [やり取り]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく伝え合うことができるようにする。

(4) 話すこと [発表]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく伝えることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多

様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく伝えることができるようにする。

(5) 書くこと

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく伝える複数の段落から成る文章を書くことができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく伝える複数の段落から成る文章を書くことができるようにする。

2 内容

[知識及び技能]

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(1)と同様に取り扱うものとする。ただし、指導する語については、「英語コミュニケーションⅡ」の2の(1)で示す語に700～950語程度の新語を加えた語とする。また、「英語コミュニケーションⅠ」の2の(1)のエの(イ)については、示された文法事項の中から、五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものを取り扱うものとする。

[思考力、判断力、表現力等]

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(2)に示す事項について、五つの領域別の目標を達成するように取り扱うものとする。

第3款 英語に関する各科目に共通する内容等

2 英語に関する各科目の2の(1)に示す言語活動を行うに当たっては、中学校学習指導要領第2章第9節第2の2の(3)及び次に示す言語材料の中から、それぞれの科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる。(略)(再掲)

ア 語、連語及び慣用表現

(ア) 語

c 「コミュニケーション英語Ⅲ」にあつては、bに示す語に700語程度の新語を加えた語

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して指導する。

ア 「英語コミュニケーションⅠ」及び「英語コミュニケーションⅡ」のそれぞれの2の(3)の①に示す言語活動のうち、これらの科目における学習内容の定着を図るために必要なもの。

イ 聞くこと

(ア) 日常的话题について、インタビューやニュースなどから必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、複数のニュースや講演などから話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を把握する活動。また、聞き取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

ウ 読むこと

(ア) 日常的话题について、新聞記事や物語などから必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、複数の論証文や記録文などから文章の展開に注意しながら課題を解決するために必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細をまとめる活動。また、まとめた内容を基に解決策を考え、話したり書いたりして伝え合う活動。

エ 話すこと [やり取り]

(ア) 学校外での生活や地域社会などの日常的话题について、情報や考え、気持ちなどを詳しく伝え合い、会話を発展させる活動。また、

【コミュニケーション英語Ⅲ】

(1) 1の目標に基づき、「コミュニケーション英語Ⅱ」の2の(1)に示す言語活動を更に発展させて行う。

(2) (1)に示す言語活動を行うに当たっては、「コミュニケーション英語Ⅱ」の2の(2)と同様に配慮するものとする。

やり取りした内容を整理して発表したり,文章を書いたりする活動。

- (イ) 社会的な話題について,ニュースや講演などを聞いたり読んだりして,情報や考え,課題の解決策などを,明確な理由や根拠とともに詳しく伝え合う活動。また,やり取りした内容を踏まえて,自分自身の考えなどを整理して発表したり,文章を書いたりする活動。

オ 話すこと [発表]

- (ア) 学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について,情報や考え,気持ちなどを,明確な理由や根拠とともに詳しく伝える活動。また,発表した内容について,質疑応答をしたり,意見や感想を伝え合ったりする活動。

- (イ) 社会的な話題について,ニュースや講演などを聞いたり読んだりして,情報や考え,気持ちなどを,明確な理由や根拠とともに詳しく伝える活動。また,発表した内容について,質疑応答をしたり,意見や感想を伝え合ったりする活動。

カ 書くこと

- (ア) 学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について,情報や考え,気持ちなどを,明確な理由や根拠とともに詳しく伝える複数の段落を書く活動。また,書いた内容を読み合い,質疑応答をしたり,意見や感想を伝え合ったりする活動。

- (イ) 社会的な話題について,ニュースや講演などを聞いたり読んだりして,情報や考え,気持ちなどを,自分自身の立場を明らかにしながら,明確な理由や根拠とともに詳しく伝える複数の段落を書く活動。また,書いた内容を読み合い,質疑応答をしたり,意見や感想を伝え合ったりする活動。

② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

3 内容の取扱い

3 内容の取扱い

「英語コミュニケーションⅡ」の3と同様に取り扱うものとする。

第4 論理・表現Ⅰ

1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの三つの領域（以下この節において「三つの領域」という。）別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 話すこと [やり取り]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝え合うことができるようにする。

(2) 話すこと [発表]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して伝えることができるようにする。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫

【コミュニケーション英語Ⅲ】

「コミュニケーション英語Ⅰ」の3と同様に取り扱うものとする。

第5 英語表現Ⅰ

1 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

して伝えることができるようにする。

(3) 書くこと

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して伝える文章を書くことができるようにする。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝える文章を書くことができるようにする。

2 内容

[知識及び技能]

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、小学校学習指導要領第2章第10節の第2の2の(1)、中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(1)及び「英語コミュニケーションⅠ」の2の(1)に示す言語材料及び次に示す事項のうち、三つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、それらと言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。ただし、語や文法事項については、三つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものを適宜取り扱うものとする。

ア 論理の構成や展開及び表現などに関する事項

(ア) 目的や場面、状況などに応じた論理の構成や展開

(イ) 情報や考えなどを効果的に伝える表現

[思考力、判断力、表現力等]

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況

第3款 英語に関する各科目に共通する内容等

2 英語に関する各科目の2の(1)に示す言語活動を行うに当たっては、中学校学習指導要領第2章第9節第2の2の(3)及び次に示す言語材料の中から、それぞれの科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる。(略)(再掲)

(新設)

などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現すること。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして、要点や意図などを明確にしながら、情報や自分自身の考えなどを伝え合うこと。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような三つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して指導する。

ア 話すこと [やり取り]

(ア) 関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、情報や考え、気持ちなどを伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりする活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(イ) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、優れている点や改善すべき点を伝え合ったり、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに伝え合ったりするディベートやディスカッションをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

イ 話すこと [発表]

(ア) 関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、使用す

【英語表現 I】

(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。

ア 与えられた話題について、即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。

イ 読み手や目的に応じて、簡潔に書く。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。

(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。

ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら話すこと。

イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら書くこと。また、書いた内容を読み返すこと。

ウ 発表の仕方や発表のために必要な表現などを学習し、実際に活用すること。

エ 聞いたり読んだりした内容について、そこに示されている意見を他の意見と比較して共通点や相違点を整理したり、自分の考えをまとめたりすること。

る語句や文，発話例が十分に示されたり，準備のための多くの時間が確保されたりする状況で，情報や考え，気持ちなどを適切な理由や根拠とともに伝える活動。また，発表した内容について，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

- (イ) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について，使用する語句や文，発話例が十分に示されたり，準備のための多くの時間が確保されたりする状況で，段階的な手順を踏みながら，意見や主張などを適切な理由や根拠とともに伝える短いスピーチやプレゼンテーションをする活動。また，発表した内容について，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

ウ 書くこと

- (ア) 関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について，使用する語句や文，文章例が十分に示されたり，準備のための多くの時間が確保されたりする状況で，情報や考え，気持ちなどを適切な理由や根拠とともに伝える段落を書く活動。また，書いた内容を読み合い，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

- (イ) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について，使用する語句や文，文章例が十分に示されたり，準備のための多くの時間が確保されたりする状況で，発想から推敲まで段階的な手順を踏みながら，意見や主張などを適切な理由や根拠とともに伝える段落を書く活動。また，書いた内容を読み合い，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。

② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

3 内容の取扱い

コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を踏まえ，話したり書いたりする言語活動を中心に，情報や考えなど

3 内容の取扱い

【英語表現Ⅰ】

- (1) 中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指

を表現したり伝え合ったりする能力の向上を図るように指導するものとする。

導を踏まえ、話したり書いたりする言語活動を中心に、情報や考えなどを伝える能力の向上を図るよう指導するものとする。

第5 論理・表現Ⅱ

1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 話すこと [やり取り]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく伝え合ったり、立場や状況が異なる相手と交渉したりすることができるようにする。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく伝え合うことができるようにする。

(2) 話すこと [発表]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく伝えることができるようにする。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく伝えることができるようにする。

第6 英語表現Ⅱ

1 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。

(3) 書くこと

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく伝える複数の段落から成る文章を書くことができるようにする。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく伝える複数の段落から成る文章を書くことができるようにする。

2 内容

[知識及び技能]

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

「論理・表現Ⅰ」の2の(1)と同様に取り扱うものとする。

[思考力、判断力、表現力等]

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

「論理・表現Ⅰ」の2の(2)に示す事項について、三つの領域別の目標を達成するように取り扱うものとする。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような三つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して指導する。

ア 「論理・表現Ⅰ」の2の(3)の①に示す言語活動のうち、「論理・表現Ⅰ」における学習内容の定着を図るために必要なもの。

第3款 英語に関する各科目に共通する内容等

2 英語に関する各科目の2の(1)に示す言語活動を行うに当たっては、中学校学習指導要領第2章第9節第2の2の(3)及び次に示す言語材料の中から、それぞれの科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる。(略)(再掲)

【英語表現Ⅱ】

- (1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。
 - ア 与えられた条件に合わせて、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。
 - イ 主題を決め、様々な種類の文章を書く。

イ 話すこと [やり取り]

(ア) 学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、情報や考え、気持ちなどを詳しく伝え合ったり、自分自身の状況や要望を伝え、相手の意向を把握しながら交渉したりする活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(イ) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、課題を明確に説明し、その解決策を提案し合ったり、意見や主張、課題の解決策などを適切な理由や根拠とともに詳しく伝え合ったりするディベートやディスカッションをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

ウ 話すこと [発表]

(ア) 学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに詳しく伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、段階的な手順を踏みながら、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに詳しく伝えるスピーチやプレゼンテーションをする活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

エ 書くこと

(ア) 学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、必要に

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりする。

エ 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。

(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。

ア 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら話すこと。

イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連、表現の工夫などを考えながら書くこと。また、書いた内容を読み返して推敲すること。

ウ 発表の仕方や討論のルール、それらの活動に必要な表現などを学習し、実際に活用すること。

エ 相手の立場や考えを尊重し、互いの発言を検討して自分の考えを広げるとともに、課題の解決に向けて考えを生かし合うこと。

応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを適切な理由や根拠とともに詳しく伝える複数の段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、発想から推敲^{こう}まで段階的な手順を踏みながら、意見や主張などを適切な理由や根拠とともに詳しく伝える複数の段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

3 内容の取扱い

「論理・表現Ⅰ」の3と同様に取り扱うものとする。

第6 論理・表現Ⅲ

1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 話すこと [やり取り]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、多様な語

3 内容の取扱い

【英語表現Ⅱ】

「英語表現Ⅰ」の3と同様に取り扱うものとする。

(新設)

句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、課題を解決することができるよう、情報や考え、気持ちなどを整理して伝え合うことができるようにする。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張、課題の解決策などを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝え合うことができるようにする。

(2) 話すこと [発表]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝えることができるようにする。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張などを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝えることができるようにする。

(3) 書くこと

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝える複数の段落から成る文章を書くことができるようにする。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用し

ながら、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、意見や主張などを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝える複数の段落から成る文章を書くことができるようにする。

2 内 容

[知識及び技能]

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

「論理・表現Ⅰ」の2の(1)と同様に取り扱うものとする。

[思考力、判断力、表現力等]

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

「論理・表現Ⅰ」の2の(2)に示す事項について、三つの領域別の目標を達成するように取り扱うものとする。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような三つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して指導する。

ア 「論理・表現Ⅰ」及び「論理・表現Ⅱ」のそれぞれの2の(3)の①に示す言語活動のうち、これらの科目における学習内容の定着を図るために必要なもの。

イ 話すこと [やり取り]

(ア) 日常的な話題について、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、情報や考え、気持ちなどを整理して伝え合ったり、課題を解決するために話し合ったりする活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(イ) 日常的な話題や社会的な話題に関して聞いたり読んだりした内容について、質疑応答をしたり、聞き手を説得することができるよう、

(新設)

ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、意見や主張、課題の解決策などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝え合ったりするディベートやディスカッションをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを、整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

ウ 話すこと [発表]

(ア) 日常的な話題について、聞き手を説得することができるよう、情報や考え、気持ちなどを、効果的な理由や根拠とともに詳しく伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 日常的な話題や社会的な話題について、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、段階的な手順を踏みながら、聞き手を説得することができるよう、意見や主張などを、効果的な理由や根拠とともに詳しく伝えるまとまりのある長さのスピーチやプレゼンテーションをする活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

エ 書くこと

(ア) 日常的な話題について、読み手を説得することができるよう、情報や考え、気持ちなどを、効果的な理由や根拠とともに詳しく伝える複数の段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 日常的な話題や社会的な話題について、ニュースや新聞記事などの複数の資料を活用して、発想から推敲^{こう}まで段階的な手順を踏みながら、読み手を説得することができるよう、意見や主張などを、効果的な理由や根拠とともに詳しく伝える複数の段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うもの

とする。

3 内容の取扱い

「論理・表現Ⅰ」の3と同様に取り扱うものとする。

(新設)

第7 その他の外国語に関する科目

- 1 その他の外国語に関する科目については、第1から第6まで及び第3款に示す英語に関する各科目の目標及び内容などに準じて指導を行うものとする。
- 2 高等学校において英語以外の外国語を初めて履修させる場合には、生徒の学習負担等を踏まえ、適切に指導するものとする。

第8 その他の外国語に関する科目

その他の外国語に関する科目については、第1から第7まで及び第3款に示す英語に関する各科目の目標及び内容等に準じて行うものとする。

(新設)

第3款 各科目に共通する指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、小学校や中学校における指導との接続に留意しながら、次の事項に配慮するものとする。
 - (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようすること。その際、具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法などの知識を五つの領域（「論理・表現Ⅰ」、「論理・表現Ⅱ」及び「論理・表現Ⅲ」においては三つの領域。3において同じ。）における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。
 - (2) 「英語コミュニケーションⅡ」は「英語コミュニケーションⅠ」を、「英語コミュニケーションⅢ」は「英語コミュニケーションⅡ」を履修した後に履修させることを原則とすること。
 - (3) 「論理・表現Ⅱ」は「論理・表現Ⅰ」を、「論理・表現Ⅲ」は「論理・表現Ⅱ」を履修した後に履修させることを原則とすること。

第4款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(新設)

- (1) 「コミュニケーション英語Ⅱ」は「コミュニケーション英語Ⅰ」を履修した後に、「コミュニケーション英語Ⅲ」は「コミュニケーション英語Ⅱ」を履修した後に、「英語表現Ⅱ」は「英語表現Ⅰ」を履修した後に履修させることを原則とすること。

(4) 多様な生徒の実態に応じ、生徒の学習負担に配慮しながら、年次ごと及び科目ごとの目標を適切に定め、学校が定める卒業までの指導計画を通して十分に段階を踏みながら、外国語科の目標の実現を図るようにすること。

(5) 実際に英語を使用して自分自身の考えを伝え合うなどの言語活動を行う際は、既習の語句や文構造、文法事項などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

(6) 生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること。

(7) 言語能力の向上を図る観点から、言語活動などにおいて国語科と連携を図り、指導の効果を高めるとともに、日本語と英語の語彙や表現、論理の展開などの違いや共通点に気付かせ、その背景にある歴史や文化、習慣などに対する理解が深められるよう工夫をすること。

(8) 言語活動で扱う題材は、生徒の興味・関心に合ったものとし、国語科や地理歴史科、理科など、他の教科等で学習した内容と関連付けるなどして、英語を用いて課題解決を図る力を育成する工夫をすること。

(9) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

(10) 指導計画の作成や授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。

2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(新設)

【コミュニケーション英語Ⅰ】

3 内容の取扱い

(2) 生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図るよう配慮するものとする。(再掲)

第3款 英語に関する各科目に共通する内容等

4 英語に関する各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮するものとする。

(新設)

(新設)

(新設)

第4款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

2 内容の取扱いに当たっては、次の項目に配慮するものとする。

(4) (略) また、ネイティブ・スピーカーなどの協力を得て行うティーム・ティーチングなどの授業を積極的に取り入れ、生徒のコミュニケーション能力を育成するとともに、国際理解を深めるようにすること。

(1) 単に英語を日本語に、又は日本語を英語に置き換えるような指導とならないよう、各科目の内容の(1)に示す言語材料については、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して指導すること。また、生徒の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること。

(2) 音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導することもできることに留意すること。

(3) 文法事項の指導に当たっては、文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、過度に文法的な正しさのみを強調したり、用語や用法の区別などの指導が中心となったりしないよう配慮し、使用する場面や伝えようとする内容と関連付けて整理するなど、実際のコミュニケーションにおいて活用できるように、効果的な指導を工夫すること。

(4) 現代の標準的な英語によること。ただし、様々な英語が国際的に広くコミュニケーションの手段として使われている実態にも配慮すること。

(5) 話すことや書くことの指導に当たっては、目的や場面、状況などに応じたやり取りや発表、文章などの具体例を示した上で、生徒がそれらを参考にしながら自分で表現できるよう留意すること。

(6) 中学校で身に付けた使い方を基礎として、辞書を効果的に活用できるようにすること。

(7) 生徒が発話する機会を増やすとともに、他者と協働する力を育成するため、ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫すること。その際、他者とコミュニケーションを行うことに課題がある生徒については、個々の生徒の特性に応じて指導内容や指導方法を工夫すること。

(新設)

第4款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

2 内容の取扱いに当たっては、次の項目に配慮するものとする。

(2) 音声指導の補助として、発音表記を用いて指導することができること。

第3款 英語に関する各科目に共通する内容等

3 2に示す言語材料を用いるに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

ウ コミュニケーションを行うために必要となる語句や文構造、文法事項などの取扱いについては、用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し、実際に活用できるよう指導すること。

イ 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。

ア 現代の標準的な英語によること。ただし、様々な英語が国際的に広くコミュニケーションの手段として使われている実態にも配慮すること。

(新設)

第4款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

(3) 辞書の活用の指導などを通じ、生涯にわたって、自ら外国語を学び、使おうとする積極的な態度を育てるようにすること。

(4) 各科目の指導に当たっては、指導方法や指導体制を工夫し、ペア・ワーク、グループ・ワークなどを適宜取り入れたり、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワークなどを適宜指導に生かしたりすること。(略)(再掲)

と。

(8) 生徒が身に付けるべき資質・能力や生徒の実態，教材の内容などに応じて，視聴覚教材やコンピュータ，情報通信ネットワーク，教育機器などを有効活用し，生徒の興味・関心をより高めるとともに，英語による情報の発信に慣れさせるために，キーボードを使って英文を入力するなどの活動を効果的に取り入れることにより，指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。

(新設)

(9) 各単元や各時間の指導に当たっては，コミュニケーションを行う目的や場面，状況などを設定し，言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより，生徒が学習の見通しを立てたり，振り返ったりして，主体的，自律的に学習することができるようにすること。

(新設)

3 教材については，次の事項に留意するものとする。

(1) 教材は，五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成するため，各科目の五つの領域別の目標と2に示す内容との関係について，単元など内容や時間のまとまりごとに各教材の中で明確に示すとともに，実際の言語の使用場面や言語の働きに十分に配慮した題材を取り上げること。その際，各科目の内容の(1)に示す文法事項などを中心とした構成とならないよう十分に留意し，コミュニケーションを行う目的や場面，状況などを設定した上で，言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すこと。

(新設)

(2) 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活，風俗習慣，物語，地理，歴史，伝統文化，自然科学などに関するものの中から，生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし，次の観点に配慮すること。

第4款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

2 内容の取扱いに当たっては，次の項目に配慮するものとする。

(1) 教材については，外国語を通じてコミュニケーション能力を総合的に育成するため，各科目の目標に応じ，実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げるものとする。その際，その外国語を日常使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活，風俗習慣，物語，地理，歴史，伝統文化や自然科学などに関するものの中から，

- (7) 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。
- (i) 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。
- (u) 社会がグローバル化する中で、広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。
- (e) 人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。

生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点に留意する必要があること。

- ア 多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。
- イ 外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。
- ウ 広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

(新設)